執筆要領 (II)

-日本語原稿の作成-

福島忠雄¹・河地利彦²

Instructions to Authors (II)

-Preparation of Japanese Manuscripts-

Tadao Fukushima¹ and Toshihiko Kawachi²

Abstract: Instructions are given to prepare the manuscript of a Japanese paper submitted to the *Journal of Rainwater Catchment Systems*. Being a model in itself, the document demonstratively prescribes the layout of the manuscript. Manuscripts should be typed on one side of white A4 size paper when they are submitted. Accepted manuscripts will be off-set printed. Titles of papers, names and affiliations of authors, abstract, keywords, main texts, headings, references, equations, mathematical symbols, captions of figures and tables and so on should be in specified fonts. All references cited should be collected together at the end of the paper. Figures and Tables with their captions should be placed appropriately.

Keywords: *Journal; Manuscript; Japanese; Instructions; Rainwater*

1 はじめに

本稿は、日本雨水資源化システム学会誌日本語論文原稿作成の手引である。この原稿自体が、論文原稿のレイアウト、使用すべきフォントのサイズやスタイルの例となっている。

論文の原稿枚数は原則として6枚以内とする。受理された論文は、そのままオフセット印刷される。

2 レイアウト

原稿には、A4版白色用紙の片面を使用する。上下のマージンは25mmとする。フォントは、漢字、ひらがな、カタカナについては明朝体全角を、英数字についてはTimesなどの代表的ローマン体半角を用いる。句読点には「、」、「。」を用い、「、」、「。」は用いない。

論文は、表題部、本文からなり、必要に応じて引用文献の一覧を含む。また、数式、図、表が含まれていてもよい。本文に対する脚注、付録は用いないこと。

2.1 表題部

表題部は一段組で、論文の表題、著者名、Abstract、キーワードからなる。Abstract以外は中央寄せで和英併記する。Abstractは75～200語、両端揃えで英文のみ記載する。キーワードの数は10個以下とし、英語表記のものをセミコロンで区切って記載する。左右のマージンは30mmとする。連載形式の論文には、(I), (II), ... のように番号を付け、その下に副題を添える。著者の所属、住所は、略称などは用いず、脚注に和英併記する。各著者との対応にはアラビア数字を用いる。表題部で使用するフォントを表1に示す。

2.2 本文

本文は、横23文字×縦59行、段間隔10mmの二段組とする。左右のマージンは20mmとし、両端揃えす

表1: 表題部のフォント

表題	13pt ゴシック
副題	10pt
著者名	11pt
Abstract	9pt
Keywords	9pt イタリック
所属	9pt

る。フォントは10ptのものを用いる。用語を強調するため、「」を用いてもよい。

見出しは第3レベルまで用いることができる。それらは左寄せし、小数点で区切った番号をつけ、10ptのゴシックフォントを用いる。各見出しの上には1行の空白行を置く。

2.3 引用文献

文献の引用に際しては、著者名と発行年を明記する。著者が3名以上の場合には、第2著者以降を「ら」(日本語文献の場合)あるいはイタリックの「et al.」(外国語文献の場合)で置き換える。

引用したすべての文献は、筆頭著者の姓のアルファベット順に配置し、9ptフォントを用いて論文の末尾に置く。そして、[1], [2], ... のように番号をつける。見出しは10ptゴシックで引用文献とする。

2.4 数式と数学記号

各数式は、欄幅でセンタリングすることを原則とする。数式には(1), (2), ... のように番号をつける。この番号は、数式の行(2行以上にわたる場合は最後の行)に右寄せして配置する。数式を本文から分離するため、その上下にそれぞれ1行の空白行を残す。数式が長く、途中で切断する場合は、各行の間に半行の空白行を入れる。

数学記号を本文中で用いる時には、数式中と同じフォントを用いる。また、それが変数を表すときは斜体とする。

¹愛媛大学農学部教授、日本雨水資源化システム学会会長 President of JRCSA, Professor, College of Agriculture, Ehime University, 3-5-7 Tarumi, Matsuyama-shi, Ehime, 790-8566 Japan

²京都大学大学院農学研究科教授、日本雨水資源化システム学会誌編集委員長 Journal editor of JRCSA, Professor, Graduate School of Agricultural Science, Kyoto University, Kitashirakawa-oiwake-cho, Sakyo-ku, Kyoto, 606-8502 Japan

2.5 図と表

図と表は、初出のページに置くことを原則とするが、次のページに繰り込むこともできる。すべての図や表を論文の末尾に置くことは避ける。

2.5.1 図

図は、写真も含め、そのままオフセット印刷されることを考慮した鮮明なものに限る。このため、特に図については、ペイント系（ビットマップ系）ではなく、必ずドロー系（ベクトル系）で描画すること。すべての図には、本文中での出現の順に、図 1, 図 2, ... のように番号をつける。説明文は 10pt フォントを用い、図の下に置いて、図幅でセンタリングする。

2.5.2 表

すべての表には、本文中での出現の順に、表 1, 表 2, ... のように番号をつける。説明文は 10pt フォントを用い、表の上に置いて、表幅でセンタリングする。

3 例

以上に則して作成された原稿の例を以下に示す。

Lions (1968) によって導かれた支配方程式について、多くの解法がこれまでに提案されている (Liu *et al.*, 1992; Liggett and Chen, 1994)。したがって、連続方程式は、「状態方程式」と呼ばれ、

$$\Delta V = q \quad (1)$$

のように書き直すことができる。ここに、 Δ = ラプラス演算子、 V = 速度ポテンシャル、 q = 湧出強度である。土壌水分が減少する時には、湧出強度 q は

$$q = q(\theta) = 64.7 + 0.00017\theta + 4.76\theta^2 + 3.92\theta^3 - 0.40\theta^4 + 29.03\theta^5 \quad (2)$$

によって評価される。ここに、 θ = 温度である。大東ら (1996) によって提案された手法を用い、(1) を空間領域で数値的に解く。変換座標系における計算格子を図 1 に示す。

図 1: 計算格子

4 おわりに

日本雨水資源化システム学会誌に原著論文を投稿する際、原稿作成の手引を示した。この執筆要領に従って作成され、かつ、審査を通過した原稿のみが論文として掲載される。本稿は日本語原稿用であるので、英語原稿の作成に際しては Instructions to Authors (I) by Fukushima and Kawachi (1998) を参照されたい。

引用文献

- [1] 大東憲二・植下 協・市川悦男 (1996): 掘削構造物周辺の地下水流動状態保全に関する研究, 土木学会論文集, 535(III-34), pp.13-21.
- [2] Fukushima, T., and Kawachi, T. (1998): Instructions to Authors (I) -Preparation of English Manuscripts-, JRCSA.
- [3] Liggett, J.A., and Chen, L. (1994): Inverse transient analysis in pipe networks, *J. Hydr. Engrg., ASCE*, 120(8), pp.934-955.
- [4] Lions, J.L. (1968): *Contrôle Optimal de Systèmes Gouvernés par des Équations aux Dérivées Partielles*, Dunod, Paris, pp.34-89. (in French).
- [5] Liu, F., Feyen, J., and Berlamont, J. (1992): Computation method for regulating unsteady flow in open channels, *J. Irrig. and Drain. Engrg., ASCE*, 118(10), pp.674-689.

■お知らせ■

本執筆要領は $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ (ASCII/ $\text{p}_{\text{L}}\text{A}_{\text{T}}\text{E}_{\text{X}} 2_{\epsilon}$) により組版、出力しています。投稿論文の作成に $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ を使用されることを推奨します。この場合には、本誌専用クラスファイル (article_rain.cls) 及び執筆要領の内容を含んだ $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の日本語論文作成用サンプルファイル (jap.tex.tex) を学会の Web ページ

<http://www.wre.kais.kyoto-u.ac.jp/jrca>

からダウンロードしてご利用下さい。